

平成 26 年度第 4 回生駒市介護保険運営協議会予防部会  
議事録

開催日時	平成 26 年 8 月 29 日（金） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 35 分
開催場所	生駒市役所 403・404 会議室
出席者 （委員）	高取委員、井上委員、小川委員、中庄谷委員、藤尾委員
欠席者	林委員
事務局	高齢福祉課長 安達、高齢福祉課課長補佐 堤、高齢福祉課 水澤、 介護保険課長 奥田、介護保険課課長補佐 島岡、介護保険課課長補佐 田中、 介護保険課係長 吉田、介護保険課係長 原木、介護保険課 齊藤
案件	<ul style="list-style-type: none"> <li>（1）会議の公開・非公開について</li> <li>（2）高齢者保健福祉計画の方向性</li> <li>（3）介護予防・日常生活支援総合事業における事業費等の見込みについて</li> <li>（4）その他</li> </ul>
資料	<p>平成 26 年度 第 4 回生駒市介護保険運営協議会予防部会 会議次第</p> <p>資料 1 高齢者保健福祉計画の方向性</p> <p>資料 2 介護予防・日常生活支援総合事業における事業費等の見込み（暫定値）</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	1. 開会 資料確認
事務局	会議次第に沿って進めます。会議は生駒市介護保険運営協議会予防部会設置要綱に基づき、部会長にお願いすることになっていきますので、部会長よろしくお願ひします。
部会長	案件（1）会議の公開・非公開についてですが、今回の案件を見ると、特に個人名や特定の事業所名等が明記されていないので、公開でよいかと思いますが、他の委員の方でご意見、ご質問はございませんか。
一同	異議なし
部会長	会議は公開といたします。 案件（2）高齢者保健福祉計画の方向性について事務局から説明願ひます。
事務局	案件（2）高齢者保健福祉計画の方向性について説明。
部会長	ただいま説明いただきました件について、ご意見・ご質問等ございませんか。確認ですが、昨日から説明がありましたように、介護予防関係の内容が生きがいつくりや健康づくりというところに今後、もう少し管理されていくということによろしいでしょうか。
事務局	その通りです。
部会長	その他、何かありませんか。
委員	私は今、健康課に直接関わって色々な活動をしています。市の養成講座を受けた人たちで、それぞれが役務を担いながら地域に健康づくりを広げていくということをしなさいという約束の下に運営されている会ですが、できて35年近くなります。聞くとところによると、色々な団体で長年活躍されてきた方々が高齢化のために、解

委員	<p>散されると。今まで、何もかも恵まれた時代に一生懸命頑張っておられた方が、これから本腰入れて地域等で活躍していただかなければならないという時に解散するという話をこの頃特に聞きます。高齢者保健福祉計画の中にも高齢者に関わる推進員のような人たちが、ボランティアや生きがいくりのレベルも大事ですが、何かで活動してもらえる推進員のようなものを今から養成されて、色々な場面に専門性を、住民レベルではなく、ちょっと勉強した人たちで構成された体制をしていくという形がこれから必要になってきているのではないかと思います。婦人会などの団体も、活動がどんどんなくなってきたり、青年団活動も地域の中でなくなってきたりする時代に、高齢者レベルですが、意識の高い方たちで推進員という形をつくって、せめて自分の住む地域で問題を抱えた人たちが、地域で活動できるような積極的な会ができたらいいなと思います。今、270名ぐらい会員がいますが、こういう大きな体制で動いているのはうちの会だけで、会長としたら、うちの会さえあればいいという気持ちはどこかにはありますが、それではやっぱりこれから高齢化社会を担っていくには、一団体で何もかもというのは、ちょっと大変かなど。それよりも、そういう意識のある人たちを集めていき、そして研修を重ねる中で、その人たちが発奮してその地域で何かを起こしていくという取り組みをしていただけたらと思います。これは長年、願いとして持っているところです。</p> <p>ボランティアの養成や育成は、(旧)福祉支援課(現高齢福祉課)の方でも長年やっていただきましたが、生きがいくりや、楽しみ、自分の健康づくりというレベルで終わっていました。自分の健康は自分で守るけれども、何人か、自分の近い人たちも巻き込んで健康づくりレベルまでちょっと引き上げた、そういう人たちをこれから育成する時期にきたのではないかと考えているところです。ぜひまたそれも検討していただいて、私たちと同じような活動をする協議会の仲間たちがたくさんできることを私は望んでいます。</p> <p>今、生駒市では寿大学や生涯学習が非常に人気があって、寿大学に参加される方がすごく多くおられます。そちらへ参加された方は、そちらで身に付けられたことを老人クラブに反映していただければと思うのですが、そういう組織が今はありません。寿大学に行かれると、老人クラブに入ってくれなくて、老人クラブの人数がすごく減ってきています。皆さんそちらの方が楽しいから、そちらで色々なサークルをつくって、寿大学を卒業してもOB会という形で集まりをつくって活発に活動しておられます。老人クラブは80歳台の集まりになっていて、私たちは、今、本当に老人クラブをどうしたらいいものかと四苦八苦しています。これは全国的なもので、生駒市だけではありませんが、すごく老人クラブに参加してくださる方が少なくなってきました。何とか人を増やして老人クラブをもっと活性化していこうと</p>
----	---

<p>部会長</p>	<p>ということが、今、全国的な老人クラブの活動の方針の中に謳われています。老人クラブが寿大学に行かれた方たちの何かをもらって、また活性化できるような、そういうことができたらいいなと思っています。</p> <p>ご意見ありがとうございます。この辺りは、昨日、少し出ていました生活支援コーディネーターの養成とも若干リンクするような気がします。たしかに運動推進員など、色々な役目は、寿大学もそうですが、出られた方が、実際は自分のためにやっているというところがメインになっていて、誰かのために役割を持ってということにまで、なかなか行きつけていないという話はちよくちよく聞きます。帝塚山大学でも、寿大学に近い取り組みをされているようですが、卒業された方が 800 名以上おられるらしいのですが、どこにも活躍する場がないということで、宝の持ち腐れになっているという話もお聞きました。活動する場ありきで養成することが必要だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私は寿大学で料理教室の講師をしているのですが、その卒業生にうちの会へ入っていただいて、今、現実的に会で先頭きって頑張っていると思います。やっぱり皆さん、どうしたらいいのかなど。何かきっかけを求めておられるけれども、手を差し伸べてもらえるきっかけを失いつつありますので、その辺を上手に。だから女の料理教室をしたり、男の料理教室をしたりすると、20 人いる中で 10 人はうちの会へ入ってくれるという形を上手にもって行って、安定的に人数も確保していますし、自分が納得できる活動の場も提供できる体制になっています。そういう意味では、老人クラブも連携を持つみたいな、今は、寿大学だけ、老人クラブだけという形ですが、何かで接点を持つ機会を持って、例えば、運動会を一緒にして仲良くなるなど、それぞれの抱える問題を話し合っ、そうやなあとな納得してもらいながら引き込むチャンスがないのかなど。お見合いの場というか、そういうチャンスを行政の方でお膳立てされると、意外に、ああ、そうなんや、そんなとこあんのんかという形で、ちょっとしたきっかけが大事なのかなどは思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>まさにコーディネートしたり、橋渡ししたりする役目がこちら側にいるのかなという気はしています。また、活動しようとする方は、イメージ的には男性の割合が少ないような気がします。例えば、サロンの参加者でも、女性の方の比率がすごく高く、やる気のある男性がどこに潜んでいるかというところで、発掘していくようなところはどこかにないのかなとも思うのですが、その辺りはどうでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>昨日、辻町というところへサロンに行ってきましたが、リーダーは男の人です。</p>

	<p>参加人数は10対3ぐらいの割合で男性は少ないですが、全体を見渡しているのは男性です。私たちが行って、ここで学んだこと、ここでご指導いただいたことをご飯を食べながら言うことで、共感していただいて、それだったら、もっと頑張ろうじゃないかという話で、昨日はいい感じで帰ってきました。皆さん、もんもんとしておられますが、それが正しいことなのか、こんなんしてええのか、どうしたらいいのかと思っておられるレベルで、私たちはそれなりにこういうところで、こういう書類を見る機会があって、生駒市はこういうことを考えておられるんですよ、元気なお年寄りが生駒市は特に多いらしいですよということを言うと、ああ、そうなんですかと。それならちょっと本気でやんなあかんという話になりました。コーヒータイムには、男性がコーヒーをいれてくださいました。女性は座っていて男性がサービスしてくださる。そうすると、男性は楽しそうにされるんですね。女性は微笑みながら待ち受ける。そういう仕掛けというのがとても大事なのかなということが私のやり口としてはあります。</p> <p>やっぱり持っていき方としては、コーディネートする能力のある人たちを育成していくというのも一つ大事なのかなと。それは行政の立場でコーディネートするのではなくて、住民レベルの同じ目線の者がコーディネートすると、受け入れやすい。行政の方がおっしゃると、やっぱり難しくなってしまう。専門性も問われたりするけれども、こんなんでもええねんとか、これぐらいで楽しかったらええねんで、と言える住民対住民の会話がとても大事かなと思って、私はあちこちのサロンを大切に回っています。</p>
委員	<p>前、老人クラブの役員会でありましたよね。寿大学を卒業されたら老人クラブに入ってもらって、そこで活躍の場を持ったらどうかという話が役員会でありましたよね。</p>
委員	<p>あるのですが、寿大学に行っておられる方、卒業されている方は、そちらの方で忙しくて、老人クラブにはまだまだそんな入れへんと言われているのです。</p>
委員	<p>寿大学だったら、教えていただいて、受け身で行けるけれども、老人クラブに入ると自分が何か役をしなければならないというのが、ものすごく気持ちの中ではあるということです。寿大学を卒業してサロンみたいなOB会をつくる時には、その自分たちの気心知れた、気の合った人とつくるから楽しいと言われるんです。老人クラブに入ってしまうと、気の合う人も合わない人もいて、そういう人と活動するのも苦痛ですし、役が回ってくるのも嫌だというのがあるので、寿大学だけではなく、福祉センターなどでも教室をやるのですが、皆さん、受け身のものはすごく応</p>

委員	<p>募が多いんです。でも、こういうのをしてもらえませんかという問いかけのものは人数が少ないです。自分からやろうというのではなく、最初はやっぱり受け身の方が多いのかなと。だからそれをいかに引っ張り込んでしてもらえるかということですね。</p> <p>そのやり方がネックになってくるでしょうね。</p>
部会長	<p>役が重荷だというお話は他市でも聞きました。どこも同じようですね。</p>
委員	<p>自治会でのポジションというか、1次産業が主になっているような村や町というのは、仕事も生活も同じ場所にあって、だから自然と仕事関係の仲間も町の関係の仲間も同じになるけれども、勤める人が多い社会になると、特に男性の方は会社の仲間や学校の仲間といったコミュニティから外れるというか、もっとばらばらである。自分の住んでいるところに戻っても、そんなに深く知らなくて、新たにつくることがわずらわしいと。だから、老人クラブ、自治会という小さなコミュニティの場所で作るから難しくなっている。都会へ行けば行くほどそうなるのではないかと思います。ボランティアは、意識は高く持っても、結局、続くかどうかというのは、楽しいかどうかにかかっている、やっていることそのものよりも、この人と一緒にやるからということの度合いの方がすごく大きい。だから、寿大学が人気なのは、内容に魅力があるから行ってみようかというのが入り口なのでしょうが、そこでできた仲間というのは、どこに住んでいるかは別なんです。OB会が盛んになっているというのであれば、OB会で全部集まってじゃないでしょうから、年代ごとにあるでしょうし、それで何かをやってくださいというふうに仕向けた方が、地域関係なしにここでやってくださいとやった方が簡単に動いてくれるかもしれないと思います。この中身を老人クラブに、自治会にというようにばらばらにすると、ちょっとそこから出す力というのは、誰もが出てくるとはなかなか思わない。だから老人クラブや自治会が衰退するというのは、そういうことなのではないかと思います。その人が持っている社会というのは、別のところにある人の方が多くなっていっているのではないかと思います。</p>
部会長	<p>寿大学は部活なども盛んにされているのですね。卒業しても引き続きクラブ活動を続けてOB的にやっつけていわれている。逆にいえば、それをうまく活用するというのは、たしかにあるかなとは思いますが。これは余談ですが、図書館を利用するのは男性が多いらしいですね。だから図書館に来ている男の人を対象に、図書館で何かをしたらどうかという案が別のところに出ていたりします。図書館に来るぐら</p>

事務局	<p>いだから向学心を持っているだろうと。しかも、メンバーも把握しやすいしということで、何か活用できないかという話がありました。</p> <p>案件（3）介護予防・日常生活支援総合事業における事業費等の見込みについて事務局から説明願います。</p> <p>案件（3）介護予防・日常生活支援総合事業における事業費等の見込みについて説明</p>
委員	<p>生駒市のシルバー人材センターに登録されている方がたくさんおられるようですが、何かが値上げになってやめたという話を聞きました。</p>
事務局	<p>年会費が1,200円から2,000円になりました。800円という率は大きいですから。ただ、シルバー人材センター自身も自分たちで運営していかなければならないと。市と国から補助金が同額出ていますが、やはりそれだけでは問題があるということで、自助で運営していけるような形で取り組んでいかなければならないということで、これはシルバー人材センター協議会で、また理事会でもそういう声が挙がって、最終的にそうされたと聞いております。</p>
委員	<p>定年後、植木の剪定が好きな人がシルバー人材センターへ登録されたり、わりと登録者が多いと聞いていたのですが。私のところはシルバー人材センターの料理教室を2年ほど行い、依頼のあった家庭に行って料理をするための講習をしていました。でもそれが中止になってしまいました。だしの取り方とか、基本的なことを教えておりました。何も私たちお金をもらおうと思っただけではないので、謝礼はいらないから料理の基本ぐらいはやられたらどうですかと所長さんに会う度に言うのですが、お金がなんとかとおっしゃる。しかし、お金じゃなくて、家庭へ入って行って活動するには最低限の能力が必要だろうと。かねがねそうに思っているのですが。また住民側もシルバー人材センターを上手に使うすべを知らない人が結構多くて。</p>
事務局	<p>周知の方法として、シルバー人材センターは広報誌を出しておられますし。</p>
委員	<p>住民は見えていないのです。うちも今度、障子を張り替えてもらったのですが、もっと早く頼んだらよかったと思うぐらい安く、丁寧に張っていただきました。取りに来て、配達までしてもらって、こんなんだったら今まで何してたのかなと思うぐらいの金額で、ああいうところをもっと住民が活用されたら、まして高齢者などは。</p>

事務局	一番いいのは、例えば、自治会にシルバー人材センターはこんなことやっています、こういうこともできますよということで回覧してもらおう。それも去年はちょっとやってもらったのですが。
委員	もっと上手にPRする。登録している方も2,000円払っても、3,000円払っても、その3倍も4倍も収入があると楽しみも増えると思います。PRが下手なのかなと思ったりするのですが。
事務局	それはどこもそうだと思います。市としてもできる範囲でといっても、何度も広報に載せてくれないので。
委員	また自治会でも言います。高齢者になると、障子の張り替えも大変なことから、活用したらいいなというのを私、つくづく実感したところです。老人クラブでもアピールされたら。
事務局	その他の問題として女性の会員が少ないと聞いています。家事支援ということも、自分たちで活動を増やしていきたいということで考えておられますが、家事支援は、女性の方の方がいいという依頼があることで男性が行きにくいとのです。頼む方も女性だったら良いということによってこられる様です。
委員	しかし、男の料理教室をしていたら、男の方がうまいんです。真面目に取り組まれるので、一つ身に付けられたら女性よりも真面目にやられますよ。
事務局	それはそうかもしれませんが、頼む側がやっぱり男性は嫌だと思われる方が多いのです。
委員	まして一人暮らしというのは、女性が多いですから。
委員	いい制度がいっぱいあるのもったいないですね。
事務局	植木の剪定などを頼んでおられる方は多いです。
委員	もっと活用したらいいと思います。(シルバー人材センターに登録されている人は)好きで入っておられますから。

委員	でも、なかなか順番が回ってこないから、結局、業者に頼まないといけなくなってしまったという方が多いですね。
委員	剪定はよく利用されていますね。草抜きや庭の掃除、手入れの依頼は多いです。
事務局	剪定は時期的に集中しますから。
委員	いい制度だと思いますから、もっと活用を上手にしたらいと思います。
事務局	そういう声があったということを伝えておきます。
委員	ここに書いてあるシルバー人材センターの生活支援サービスですが、やはりある程度の教育的な何かを受けられて、派遣されていらっしゃるのですか。
事務局	はい。こちらに掲載していますシルバー人材センターによるサービスは、平成24年10月から開始しておりましたモデル事業の生活支援サービスとなっています。サービスがそのまま現行として使っていただけるような形で。内容については、日中の家事のことや、掃除、あとは電球の取り替えというようなこと、布団干しなどの大きなものといった内容でやっています。
委員	私も定かではありませんが、ワンコインサービスということをシルバー人材センターがやっておられるとは聞いています。それとこれとはまた別ですか。
事務局	シルバー人材センターのサービスは、家事に関して3つの区分があります。ワンコインサービスはシルバー人材センターが独自でやっているのですが、種別が決まっています、30分以内の活動が一つ。もう一つは、従前、10年ぐらい前からある生活援助、家事援助サービスです。それを住民とシルバー人材センターとで契約するというサービス。それは例えば、家事援助をしていただくにしても、こことここをお掃除してほしいと頼んで、時間と内容に応じてお支払いするというサービスです。もう一つの生活援助サービスは、生駒市がシルバー人材センターに委託して実施しているものです。研修を3回実施し、養成を行い、今、自費でやっているサービスとは区別してもらっています。というのは、自費のサービスは、これをしてほしい、あれをしてほしいという要望ごとに請け負う仕事なので、「自立支援」という考え方とちょっと離れてしまうんですね。ですが、こちらでお願いしているのは、

	<p>あくまでも軽度の認定者の方や虚弱な方なので、できることは自分でやってもらって、できないところをお手伝いするというサービスなので、研修をしっかりとさせていただき、トラブルがないようにお話をさせていただいて、必ず研修に参加された方でチームを組み、コーディネートについてもしっかりと行政側と連携をしてサービス提供するという形になっています。</p>
<p>部会長</p>	<p>その他いかがでしょうか。通所型等のことについて、何かございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>通所型の機能は、聞けば聞くほどよく分からないというのが率直なところですよ。国が意図しているのは、要支援は徐々に全部外そうということに間違いはないだろうと。お金がないからそういうことなのかもしれませんが、昨日のフローチャートになっていた入り口のところでのチェックシートは、今のこれを見ても、新規で要支援1、要支援2と。今、認定を受けていて、このぐらいのものは新しく出てくるというのに、窓口で年間に何百人という人数を処理できるのだろうかと思います。それは不可能に近いだろうと思います。実際にどうなるのかなど。だから余計イメージがわきにくくなっているのが正直なところですよ。</p> <p>勝手な解釈をすると、本当はできるだけ生活期のような、全部を総合事業というか、市町村に要支援の人は全部移行したいというのが本音のところなんだろうと。ここが移行期のところで、今までのデイサービスだ、訪問介護だというところは、今は暫定的に残るけれども、いずれは全部外していく。もっといくと、集中介入期というところを読んでいると、実際には、デイケアとどこがどう違うと思うのは、いずれはそれも予防は全部外すと。それは市町村の責任で面倒をみるというのが意図だろうと思います。意図されると、そういうことなのかもしれませんが、それをどのように移行していくかということ。大きくは結局、昨日も色々話がでていましたが、全国を平均すればこうという話がありますが、多分、そういう意味では市町村単位ではすごく格差というか、差がある話なので、平成37年でしょうか、2025年にそういう部分として、どういうふうになっていたらいいとかというビジョンが本当は先だろうと。言葉でこうなればというのは分かりますが、生駒の地形だったり、そういうところに、サロンでも活性化する時期と衰退する時期と、やっている人のパワーの違いが出たり、そういうふうにも何もかもがボランティアというふうになってしまうと、そうなるでしょうし、すごく全国平均よりも後期高齢者が多くなる2025年ぐらいになったら、サロンもどんなふうになっていたらいいのか。結局、継続していかないといけないし、今、実施ができて、多分同じ人が10年、20年とそれは続けられないということとか、しつらえをどうするのか、イメージがどんなふうになっていたらいいのかとか、例えば、生駒市だと、けいはんな線ができた</p>

	<p>ことで、結局、縦に長いところに、縦に全部駅があるというか、場所的に東に登っても、西に登っても全部山で、サロンにわざわざ登って行く人はいないでしょうから、駅が多分一番谷になっているところを走っているというイメージです。そういうふうに集まれるようにとか。例えば、10年後に場所的なものを持たせると、その運営はどうするのかという時に、寿大学を利用するではありませんが、今は元気なOB会ですが、10年後そのOB会が丸々元気かというところではないので、うまく世代交代するとか、そういうことをつくっておく必要があるのではないかと思います。</p> <p>多分、予防の部分というのは、高齢者というのは、新しく表れてくるのは全部予防の人ばかりで、年齢は高くても予防は必要にならない人が一番たくさんというのが一番いい状況で、目指せ“ぴんぴんころり”でしょうが、その期間が一番長くて、予防給付のようなものが必要だというけれども、せめてここにとどまろうということです。</p> <p>寿大学に行っている方も、年齢的には高齢者です。だけどそれは反対に手を出せる方の高齢者で、その人たちが多い方がいい状態です。サロンとかでも、交通手段がないから来にくくなったとかいうことは非常に問題だといっているのをどう出すかということですから、結局、立地の話やどういう人が引き連れてくるかとか、もちろん魅力あるメニューでしょうが、手弁当でやろうという人が楽しくないと続かないでしょうというしつらえをどうするかというイメージを大きくつくる。そうすると、何をどうしていったらいいかという話になるのではないかと。</p> <p>シルバー人材センターはこうで、今こうなってきたと、ここをもっとこうする。たしかに一つ見れば、それはすごくいいことですが、今、すごくみんな単体であるようにイメージしてしまう。大きくこうするために、シルバー人材センターもこんなふうになったらいいなと誘導する必要があるのではないかとというふうに思います。こんな話になると、ここで決まる話ではないでしょうが、大元のこんなふうになればという話があると、すごく話が進めやすいように思います。</p> <p>私もそう思います。大きなゴール設定というか、理想像のために今、段階を踏んでやっているのだというところが、ちょっと見えにくいということでしょうか。何か追われている感がありますね。どっときている流れに対応していくために、どうしていったらいいかというふうなところで。</p> <p>先手を打つ必要がある感じがします。</p> <p>そうですね。たしかにそうだと思います。前回か前々回に、サロンでも移動の間</p>
部会長	
委員	
部会長	

事務局	<p>題、送迎の問題が話題に出ていたと思いますが、これは新しい移動支援に含まれる可能性はあるのでしょうか。そういうふうに使えるというのは。それはないのでしょうか。</p> <p>訪問型の類型の方にも載せていますが、訪問型の多様なサービスの一番右端の5番の訪問型サービスDの移動支援というところです。ここについては、9月に出るQ&amp;Aにより判断というところで、国の方にも問い合わせしているところですが、先日、国の方が主催した市町村セミナーの方に参加した際にも説明があったところでは、このサービス内容に書いているような、移送前後の生活支援という形で、通院介助のようなものだったり、あとは移動に至る前の準備というようなサービスを想定ということで、国の方もおっしゃっていましたが、平成18年に一般財源化された有償の移動サービスというものを、またこちらの方に持ってくることはかなり困難なので、そのニュアンスではないかなというところです。</p>
部会長	<p>移動そのものではないということですね。移送前後のというところが。</p>
事務局	<p>支援のヘルプサービスということですか。</p>
委員	<p>たしかに移送前後のというか、少し手助けをすることで助かる人もたしかにおられるのですが、絶対数として、それが必要な人が、これはせいぜい対象が要支援レベルなわけですね。それは対象として介護タクシーは使えないわけですよね。何をイメージしておられるのかが、よく分からないのですが。</p>
事務局	<p>同じくです。逆に、移動支援と、ここにもカッコで書いてありましたので、あえてそのように書いています。ですから、私たちとしても、生活支援サポーターがうまく使えればいいのかという見込みも立てているのですが、具体的なことがまったく何も出ていないので、9月に国の方がQ&amp;Aを出す予定をしていますので、その答えを待っている状況です。</p>
部会長	<p>具体的にお聞きしたい部分でもありますが、通所型のモデル事業からの継続で、クラス的には2クラス増という形になるということですね。クラスが増えるというのは、実施場所も増えるというイメージでよろしいですか。もしくは場所は増えないで、回転するクラスが増えるということでしょうか。</p>
事務局	<p>想定しているのは、場所を変えないで、火曜日、金曜日でしているのを、例えば、</p>

	月曜日、木曜日にするといったことをイメージしています。
部会長	場所を増やすという案はないのでしょうか。どうしても、1箇所ではアクセスの問題とか、送迎の問題とか色々あるのかなと思ったりするのですが。
事務局	今やっている形のを継承していきたいと思っているので、まずスタッフに育ててもらわないとしんどいところもあるので、まずそこを今増やそうと思っている中において、病院のリハスタッフをこれから別のところをお願いをして、そういう人材育成をしたあと、点在させたいというイメージです。
部会長	<p>分かりました。今、お聞きしたのは、幸楽の方でされているのが、設備がかなり整っているので、場所的には増えた方がいいのかなと思いつつ、設備のトレーニングマシンといったハードの面の問題があったり、見せていただいた時に、ボランティアも役割的にマシンの方のサポートという形でお手伝いされているようでしたので、その辺、もし場所が増えるのであれば、その辺りの問題も出てくるのかなというふうなことが少しありました。</p> <p>あとは、膝関節教室というのは新設になるのですね。新しい取り組みということですね。これに関しては、具体的にどこで誰がやるかという話が出ているのでしょうか。</p>
事務局	具体的には決定していませんので、これから検討していく予定です。
部会長	一応、セラピストと書いていますが、これも誰が関わるかというところはこれからというところですね。
事務局	理学療法士にお願いしようと思っていますが、まだこれからの段階です。
部会長	よくこういう教室は、腰痛膝痛教室といって腰痛がセットになっていることが多いと思いますが、これはあえて膝だけに絞っているというのは、何か理由があるのですか。
事務局	腰痛、膝関節にさせていただこうと思います。
部会長	深い意味があるのかなと思っていました。

委員	私もそう思っていました。
委員	<p>先ほど、数が増えないかという話がありましたが、幸楽がやっているようなマシンを置いてという本当の集中介入期というのは、それは場所固定で、どこまで増やせるかというのは、それこそ金銭面も含めてでしょうが、パワーアップ教室のようなものは、結局、サロンの話でも、移動の話が大変な話になってきて、パワーアップ教室のようなものになると、それは細かく分ければ次の段階のような、マシンを使っての集中介入期の次の段階。これはべつに出前でいいのではないかという話です。そのようにものすごく思うのですね。そのために、本来地域的に点在しているサロンが、仮に駅ごとにできたとか、本当は小学校とか幼稚園とか保育園の横にあるとか、べつに年寄りだけの話と考える必要はまったくないと思いますので、ほかの人も出入りするようなものが確保できた時に、普段はサロンをしているけれども、毎週1回出前でそういうのがきますという話だとか、だから全部のしつらえの話だと思います。本当に集中介入期が必要だというのは、例えば、中、北、南のようにあって、そこを全員が利用する必要は多分ないでしょうし、パワーアップ教室が出前で来た時に何度か利用したら、あとは普通にサロン。それも同じ場所にした方がいいのではないかと思います。その運営をクラブ活動的にやって、それも全部老人クラブや自治会に任せてしまうとおかしくなっているのではないかとイメージしています。だから、10年後のビジョンだということであれば、そんなふうになっていたらいいのではないかというふうに思います。本来、そこに子どもたちも出入りするようなしつらえができていたら、本当はもっといいだろうなと思います。</p>
部会長	<p>そうですね。コンビニぐらいの感覚であればいいのではないかと思います。コンビニの数は間違いなく徒歩圏内にあって、かなりの数がカバーできていると思いますので。</p>
委員	<p>料理教室をしていたということであれば、できた料理を自分で食べるのではなくて、保育園の子どもに食べさせるというぐらいのことがあってもいいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>そうですね。その辺りも、話し出すと壮大な話になってきます。世代間交流がすごく大事なかなというのがあります。昨日の資料に、庁内横断的なプロジェクトという文面があったと思います。庁舎内の色々な部門が連携してやるという、そういうことが生きがいと重ねていくとそうなるのかなと。そうしようと誘導されて</p>

委員	<p>いる気もしますが。</p> <p>ハードが整って、さあとといっても、多分、そんな簡単な話ではないので、そういうことをやろうということをやちゃんと掲げて、10年間種まきをしないとそういう話にはならないと思います。だからちゃんと目的が同じになるようにというか、単体でみんながあると、ここと思うので、そこはすごく思います。</p>
委員	<p>今、世代間交流の話をされていましたが、長年老人クラブもそれに組み込んでやっています。それが市からある程度補助が出ていたのが、年々補助が縮小されて11万円だったのが今は2万円になりました。世代間交流をするのにもお金がないからできなくなってきています。というのは、やっぱり子どもたちと老人クラブが交流すると、子どもたちのパワーをもらって、すごく生き生きします。子どもたちとの交流は力があるんですね。それが市からの補助が削られていくものですから、その事業ができなくなってきています。生駒市老人クラブ連合会もそれをすごく残念に思っています。本当に毎年減っています。</p>
部会長	<p>それは役所内ではどこの部門になるのですか。</p>
事務局	<p>高齢福祉課が担当しています。おっしゃる通り、老人クラブは特に減りが大きいとは思っています。世代間交流については、今まで6万円委託料を払っていましたが、補助金になって、使った額の半分で上限が4万円です。いくら色々なことをしてもらっても最大4万円と。老人クラブ自体の補助金も、もともと6,000円7,000円あったのが、今は5,000円とか、これからまだ減らせといわれている状況です。私たちの方としても、これ以上減らしたら運営自体がおぼつかなくなると思っています。とりあえず、28年度まで減っていき、29年度からもまた減らせといわれているのですが、それはできませんと回答している段階です。</p>
部会長	<p>見方を変えれば、介護予防に通じるころはあると思いますが、これは何か新しい総合事業の中での、どこかと読み替えのような形は不可能なのでしょうか。例えば、地域介護予防活動支援とか、そういうふうな枠に読み替えてしまうということは無理でしょうか。</p>
事務局	<p>これからそういうこともあるので、そういった面からも支援が必要だという形で、読み替えというところまでは考えていませんが、一応、そういう形でこういう方たちも活用しなければならないと。地域サロンもそうですし、老人クラブもそう</p>

委員	<p>ですし、シルバー人材センターもそうですし、介護予防の活動に携わってもらって、そこでいくらかの補助が出せたらというふうに担当課では思っています。</p> <p>私が言っていた世代間交流というのは、もちろん予算、お金もあって、それのこともできればいいのですが、特別に世代間交流をしましょうという、何かそのために特別なことをしましょうということではなくて、本来はそこでサロンをやっている、もう少し手を加えてパワーアップ教室が出前できますといったことをやる。ところが、この建物の中に、極端なイメージをすると、学童保育がここにあってもいいと。ここではおじいちゃんおばあちゃんはそういうことをやっているけれども、横で子どもたちが宿題をやっているというようなことでいいのではないかということです。だから導線が一緒になるようにしてしまうというようなイメージのことで。</p>
委員	<p>そういうハコモノがいるわけですね。</p>
委員	<p>特別につくらなければならないのか、今あるものをそういうふうに使えるのか。だけど、場所によっては、結局、使わないということになるので、今おっしゃっていたように、コンビニの数みたいなこととか、遠くなればやめておこうかになるのでしょうか、すごく漠然としています、人が出入りしているという。</p>
部会長	<p>自然発生的にというか、自然とそこには色々な世代の人が集まるという、そういうイメージでしょうか。</p>
委員	<p>何々町という仕切りよりも、道路のあり方によって、ここの方が入りやすいとかあるわけです。私はこっちの自治会だけれども、ここの方が近いし入れるということで入れてもいいと思います。コンビニもそこの方が近いけれども、道路を渡らなければならないからこっちに行きますというのと同じ話です。学校の帰りに寄っていますと。</p>
部会長	<p>そういう場、活用できる場所があればいいということですね。</p>
委員	<p>前提がそういう話です。</p>
委員	<p>なかなか難しいですが、学校の空き教室などで学童保育をしていますね。それとちょっと分野は違いますが。</p>

委員	制度上はすごく難しい話になるとは思いますが。
委員	難しいとは思いますが、空き教室の隣に高齢者もいてというイメージかなと。
委員	小さなコミュニティが、普通にあると。
委員	縦割りだから、なかなかその辺が難しい。学校に言ったらいいというけれども、学校からは断られます。学校は違う課だったりします。私たちが料理に行かせてもらおうと思っても、来てと言われなことが多いですから、なかなか難しいですね。
委員	制度的にはものすごく難しいかもしれません。
委員	あの壁を取り除いてほしいと思います。
委員	こんな話が元に出ているというのは、要は金がないということで、最終的にもっと金がなくなっても、何となく寄って、自分たちで楽しく助け合っというものにするための種まきのようなものだと思います。
委員	その種まきにかなり時間をかけて、人づくりをする。制度を破っていくということも必要ですね。うちも子どもに味噌造りを何十年も教えていますが、生駒市内全校に行きたいという夢はありますが、来てくれといわれるのは1校だけです。行くのは私も含めて高齢者です。指導員という立場で行くのは、おっちゃんであったり、おばちゃんであったり、それこそ異世代交流です。おじいちゃんおばあちゃんレベルで行くのですが、学校レベルで来てとは言ってくれません。夢を実現させるには、相当、大変です。しんぼうして、くじけないで頑張っていかなければならないところもあります。でも先生を見つけては、行かせて行かせてと声をかけする努力も必要かなと。どうせ駄目だというのではなく、行くよ、行くよぐらいに。頑張っていますが1校から増えません。味噌造りを手段として、おじいちゃんおばあちゃんレベルの人たちが一緒に味噌をこねて、半年ぐらいしたら、できた味噌をみそ汁にして食べる。子どもたちに感謝してもらいながら、という意味では、いい交流だなと思っているのですが。それが全市に行きたいという夢を長年持っていますが、学校サイドが来てくれと言ってくれません。
部会長	そこはまた違うのですね。

委員	<p>老人クラブは、そういうのをやっているんですよ。昔遊びのお手伝いに行ったり、小学校へ行ったり、それも世代間交流ですね。それが補助がほとんどなくなってきて、今も校区で4万円とおっしゃっていますが、校区の中に単位が7つも8つもあるんです。その4万円を分けたら本当にわずかです。それで事業をやらなければならなかったら、老人クラブもみんなお金を持っていないんです。</p>
委員	<p>私たちのところは自治会から補助が出ています。</p>
委員	<p>それは地域によって色々です。自治会から補助をもらっていたとしても、1年に5万円6万円程度だったり、老人クラブの会費を納めなくてもいいぐらい自治会からもらっていたりと本当に色々です。今の一番目の課題は、今まで子どもたちにすごく喜んでもらって世代間交流をやってきたのに、お金がだんだん減らされたらもうやらなくてもいいということやなど。やめておこうかという話に、今、なっているんです。それはちょっとまずいというのですが、そんな感じです。うちの方の老人クラブは、いつも世代間交流ですごく生き生きしていたのが、補助がないからやらなくてもいいかとなってしまっています。</p>
事務局	<p>多分、今の老人クラブの人たちは、みんなこういうふうにしてあげたいという思いがすごく強いんです。では、子ども会からいくらかでももらったらいじゃないという話も出るのですが、そんな子どもからはもらえないと。私はしてあげたいという思いがものすごく強いんだと。本当にすごくしてあげたいという気持ちがあるのはよく分かるんです。お金を使わずになんとかやらなければしゃあないなどおっしゃっているので、だからその辺が難しいようです。やってあげたいという気持ちと、でもお金がないから、お金を使わないでどうしていこうかなという思いで、窓口に来られたら、しゃあないからやったけどという方と、もうそんなんでけへんわ、お金ないからという方といらっしゃるので、その辺が難しいかなと思います。</p>
委員	<p>私たちの単位の老人クラブは、やっぱり夏祭りをしてもちつきをしてと、結局、子ども会にもお金をもらって、老人クラブもお金を出して、自治会からはもらっていませんが、色々なサークルがあるのですが、そういう方たちにお手伝いしてもらったり、それこそかき氷や綿菓子だといったら、機械を借りるのにもリース代が高いですから、そこへ借りについて、安くできるように私たちは子どもたちと楽しんでいます。子どもも喜んでくれますし、年寄りも、今日は何かすごくパワーをもらったわとって帰られますから、これは毎年続けていきたいなど。老人クラブから</p>

	<p>出せる世代間交流費がなくなってしまうたら、これもちょっと出せないなとなってきますから。</p>
事務局	<p>ずっと続けているので、続けていきたいけれどというようなことを言っておられます。お金を使わないいい方法がないかなと言っておられます。</p>
委員	<p>それも策ですね。</p>
委員	<p>でもやっぱりおもちつきをすればいいなら、餅米は買わないといけないし、それこそあちこちで集めたり、参加費を一人100円もらったり、そんな形でしていますけどね。だけど本当に老人クラブが子どもたちからパワーをもらっている、そういう事業がやれなくなってきた現状がっらいです。</p>
部会長	<p>それは残念です。</p>
委員	<p>また違う名目で出せるような方法を。違う形で考えていただいたら。</p>
委員	<p>老人クラブの役員会が毎月あるんですが、集まるたびにその話です。今年はそちらはどうした、お金ないから出来ないなといったことばかりです。</p>
委員	<p>何か売ってもうけるなどしてはどうでしょうか。</p>
委員	<p>どこかから大きな寄付をもらわなければならないですね。</p>
委員	<p>うちは夏祭りで老人会がジュースを売ったりして、何万ももうけられましたよ。だからやっぱり出ないなら出ないなりに考えていかなければならないと思います。向こうが頼むからもらってくれと言うぐらい頑張ったらどうでしょうか。補助金出すからもっとやると言われるように。</p>
委員	<p>やっぱり地域性もありますし、地域でこんなしょうやと言う人がいるのといないのとでも違うでしょうし、なかなか老人クラブは役員のなり手がいないというのが現実です。</p>
委員	<p>うちは自治会の役員をしていた人が自然に老人会の役員に降りていくコースになっていますから、心配なく役員はちゃんとできますよ。</p>

委員	老人クラブの役員も大変です。
委員	色々よくよ考えてもしかたがないですから、どうにかして乗り切らないと。こんな事態になっているんですから。
委員	本当に世代間交流費を考えてください。
委員	世代間交流費でもらわないで、違う名目でもらったらいいのではありませんか。窓口がちょっと考えて、上手に。
部会長	僕も単純にはそう思います。別の名目で。
委員	駄目だというものを無理に頼んでも駄目ですから、違う方策で。
部会長	見方を変えれば。読み替えはきくのかなと。研究費ではありませんので、なかなかうまくいかないかもしれませんが。世代間交流の場が、小学校に行くだけではなく、本当に小さなコミュニティであればいいというので、多分、その辺は色々な企業も似たようなことを考えているのではないかという気が最近しています。コンビニの話が出ましたが、セブンイレブンかどこかは、コンビニとセットでそういう場をつくってといううわさを聞いたことがあります。今、カラオケボックスもコミュニティ教室をたくさん持っておられますね。太極拳の運動教室も何十もの文化教室をカラオケボックスでやっておられますので、企業も多分、色々考えていると思いますので、その辺とコラボして、お互いにメリットがあれば、それこそコンビニにくっつけて、そういう場をつくってもらって、コンビニからお金を出してもらうといった手もありかなという気はします。スポーツクラブ等も同様だと思います。地域に根ざしたということをよく掲げていますので。県が去年つくった健康ステーションがありますが、元々の発想は地域に根ざした誰でも集える場で、しかも運動指導や健康チェックが気軽にできるというコンセプトだったと思いますが、なぜか近鉄百貨店にできてしまったという経緯があって、あれはがっかりした記憶があります。そんなところにつくるんだったら、もうちょっと小さいところをいっぱいつくればいいのにということがあったのですが、それも百貨店に来た人は、誰でもそこに寄ってという感じで歩数計を貸し出しておられるらしいです。その元になったものが、他府県でそういうことをやっておられるところがたくさんあって、なぜか奈良は百貨店につくってしまったという状況なのですが、やり方としては、もうち

事務局	<p>よつといいやり方があったのではないかなど。たしか、生協と組んでいたのではないかと思います、企業などとのコラボレーションをしておられるので、そういうのもちょっと手かなという気はします。空き家利用は今も取り組まれているとは思いますが。特に意見がなければ案件（４）その他について事務局から説明願います。</p> <p>案件（４）その他</p>
部会長	<p>では、閉会いたします。 (終了)</p>